



北杜市バイオディーゼル燃料を考える会 活動紹介

私たちは2005年より使用済み天ぷら油の回収運動の普及啓発活動やバイオディーゼル燃料の普及活動を推進し、資源循環型社会の構築に寄与することを目的に活動してきました。

主たる活動は

- (1) 使用済み天ぷら油の回収運動を地域に広めるための普及啓発活動。
 - ・市役所支所に家庭からのてんぷら廃油を回収するためのドラム缶を設置する
 - ・地域のイベントで啓発パンフレットを配り、廃油も回収する
 - ・会報の発行、啓発パンフレット作成
 - ・啓発用紙芝居を作成し、子供たちへの啓発を行う
- (2) バイオディーゼル燃料を地域に広めるための普及活動を推進。
 - ・製造プラントを設置してバイオディーゼル燃料を製造する
 - ・ディーゼル車での個人利用
 - ・トラクターで畑を耕す
 - ・イベントの電源としてバイオディーゼル発電機の電気を使ってもらう
- (3) 「ひまわりバンク」で食用油の地産地消を目指す
 - ・会員にひまわりを育てていただき回収した種を通帳に貯め、搾油した油と交換する
 - ・遊休農地を花と油の大地に転換する
- (4) 環境イベントでの、てんぷら廃油を使ったキャンドル作りワークショップなどの活動を続けてきました。

2017年春からは「北杜市環境保全事業補助金」より助成いただき「小型バイオディーゼル燃料発電機の利用による環境保全事業」として、有害鳥獣防護用電気柵の電源にバイオディーゼル発電機を利用する検証を行っています。

初年度は発電容量からすると広範囲の電気柵設置に対応可能なことは検証できましたが多様な動物の生息が確認でき、それぞれに対応するためには柵の設置方法などを工夫する必要性が分かりました。

2018年度は前年の検証に基き、電線を増設して設置間隔を狭めたり防護網との共用によって防護効果が上がる事が確認できました。

2019年度はさらに設置方法を工夫することによっての検証を行う予定です。

10周年記念誌
表紙より
活動の様子



10年間の I LOVE 油

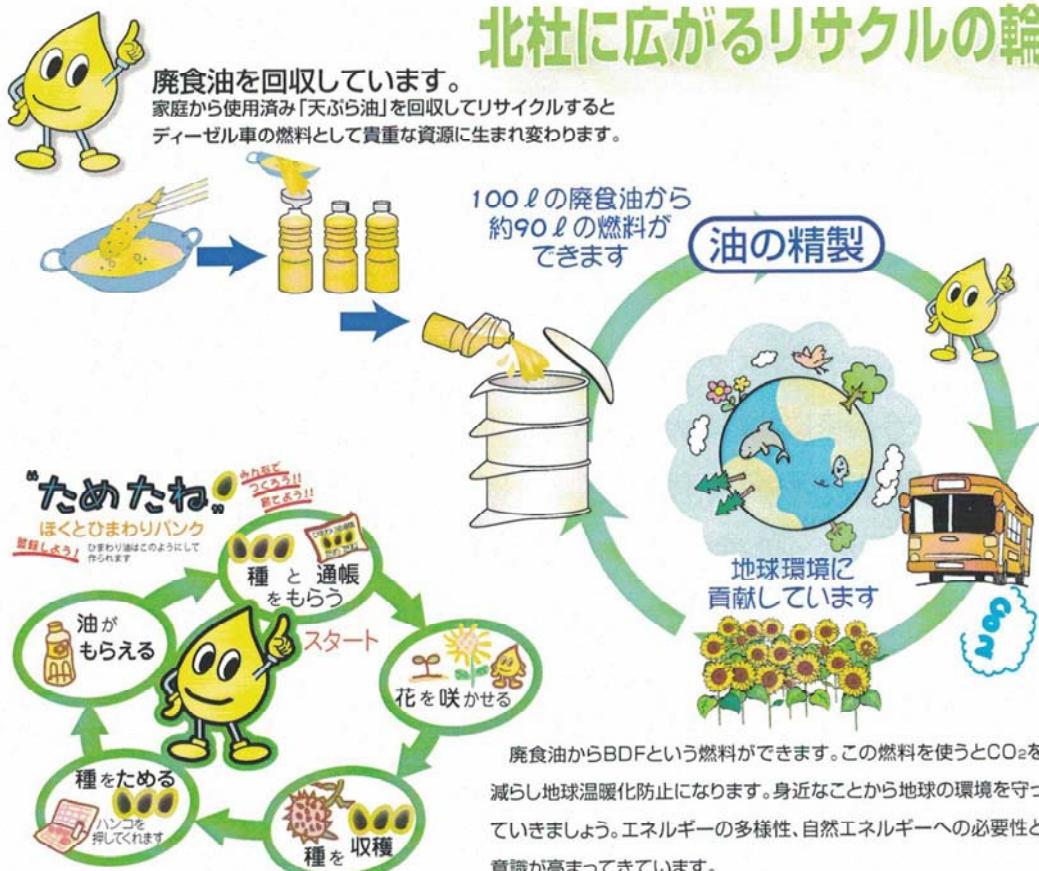
北杜市バイオディーゼル燃料を考える会 10周年記念誌



北杜市バイオディーゼル燃料を考える会



北杜に広がるリサクルの輪



I want 油 I need 油 I love 油

編集後記

お蔭様で10年という節目を迎えられました。10周年を迎えるにあたり、いままで関わってくださった多くの方々より発足当時の話など貴重なお話や、当会に対する思いを頂き、本当にありがとうございました。

この10年で様々な出来事が起き、社会の環境も大きく変わりました。バイオディーゼル燃料もそのひとつだと思います。ですが、自然環境を守り、次世代に美しい地球を残すためには、まだまだやらなければならないことがたくさんあります。次の節目の10年に向けみんなで考えながら走り続けたいと思います。

北杜市バイオディーゼル燃料を考える会 10周年記念誌

10年間のI Love 油

2016年1月16日発行

発行者 北杜市バイオディーゼル燃料を考える会

北杜市高根町藏原 1488

印刷所 (株)ピー・エス・ワイ

2018年3月4日（日）開催 北杜市男女共同参画推進委員会主催の「ほほえみフォーラム2018～支えあい、男女がともに築くまち～」での活動紹介。

QRコードはYouTube動画にリンクしています。



小型バイオディーゼル燃料発電機の利用による環境保全事業

・目的

鳥獣害対策用電気柵を利用するにあたり、電源として小型バイオディーゼル燃料発電機を使った場合についての実地検証(2017~2018年度)

・事業内容

1. 1000~2000m²程度の農地を借り受け、外周に電気柵を設置する。電源としてバイオディーゼル発電機を設置する。
2. 5月頃に設置作業を行い、設備の設置終了次第、作物栽培を行う。
3. 年間を通して柵の外周を観察し、動物の行動を記録する。
4. 柵周辺の草刈等の保守点検作業。
5. 2~3年かけて検証後、継続するかを判定する予定。

・効果と検証

2017年度

1. 鳥獣害対策用電気柵として一定の効果は認めるが規定の張り方ではすり抜けてしまう動物もいたので、電線の増設や防護網との併用が望ましい。
2. 周りに耕作放棄地が多く、たくさんの野生動物が生息していることが確認できた。
(シカ・イノシシ・キツネ・タヌキ・アナグマ)
3. 電源が無い場所、森林内、広範囲な設置の場合などは発電機の利用は有効。

2018年度

1. 電線間隔を狭くして防護ネットと併用した場所は電線を壊されずに済んだが、昨年と同じにしておいた部分は動物に壊されたので、昨年の検証による今年度の対策は有用であったと思われる。
2. 設置範囲を広げたり周囲の農家も網の設置を増やしたせいか動物の侵入は無かったが、稻刈り後のネットを一部外した状態では圃場内に動物の足跡が見られた。
3. センサーダブルの不調で動物の監視ができなかったので、網の傷みや足跡の目視のみを確認する。

・総括

1. 電源の無い場所や大規模に電気柵を利用するためバイオディーゼル発電機を利用することは有効であるが、発電機の設置やメンテナンスには手間が掛かるため、できるだけ広範囲に設置をしてコストを下げる必要となる。
2. 電気容量には余力があるので、光や音を使った動物撃退機器などの併用も有効な手段として考えられる（山梨県内では撃退ロボットなどの実験も行われている）。
3. しっかり防護するためには鳥獣害対策用電気柵と防護ネットを併用し、かつ広範囲に囲うことが必要と思われる。

2017年 4段張り

シカによって電線のが碍子が動かされ、電線も切られた



段数を増やして防護ネットと併用することにより、電線を壊されなくなった。

2018年 7段張り + 防護ネット（ネットも小傷）

7段張って向こう側へ増設した部分は電線を壊されていない（オレンジ色の色褪せていない電線が増設部分）

